

市政ニュース

今、豊岡が熱い！ 豊岡を元気にする施設が次々オープン

今春の豊岡は、さまざまな施設がオープンし、まちが活気づいています。

■「豊岡1925」オープン

4月18日、お菓子を中心テーマとした「豊岡1925」(旧市役所南庁舎別館を改修)がオープンしました。



▲北但大震災発生時刻で止まっている時計

1階の吹抜けスペースは、駅舎をイメージしています。円形のスイーツショーケースやかばんのモニュメント、カフェ・レストランスペースがあり、宿泊室やバーもあります。

■「市役所新庁舎」
4月19日、市役所新庁舎のランドオープンを市民と一緒に祝いました。

石碑除幕や感謝状贈呈、屋外コンサートなどを行い、多くの人の夢や希望を乗せた風船を空高く上げました。

■Toyooka Kaban Artisan Avenue オープン

4月19日、カバンストリート(中央町・宵田商店街)に、かばんのまち豊岡の象徴施設「トヨオカ カバン アルチザン アベニュー」がオープンしました。



▲オリジナルカバンが並ぶ(1階)

豊岡でつくられたかばんや、パーク、キットなどを展示・販売しています。さらに、未来のかばん業界を担う人材を育成する、アルチザンスクールも設置しています。

■「神鍋温泉ゆとろぎ」オープン

4月20日、道の駅「神鍋高原」(日高町栗栖野)東側に「神鍋温泉ゆとろぎ」がオープンしました。



■「城崎国際アートセンター」オープン

4月26日、「世界から城崎へ、城崎から世界へ」を合言葉に、芸術・文化の創造拠点「城崎国際アートセンター」(旧城崎大会議館を改修)がオープンしました。



地元ダンスチームの歓迎パフォーマンスや観世流能楽師田茂井廣道さんによる祝言謡「高砂」・仕舞「田道間守」が式典に華を添えました。

市議会の同意を得て 任命された委員

【教育委員会委員】(敬称略)
任期4年



▲中川 茂

豊岡市公共交通情報誌 「足ナビ」(平成26年版)発行

市内の公共交通情報をまとめた平成26年版「足ナビ」を発行しました。

鉄道(JR・KTR)やバス(全但バス・市営バス「イナカー」・市街地循環バス「コバス」)、但馬空港のダイヤなどが、この1冊で分かります。また、毎月第2水曜日に実施している「豊岡ノーマイカーデー」に関する情報も掲載しています。

私たちの大切な移動手段で



ある公共交通を守り、次代に引き継いでいくために、みんなで公共交通を利用しましょう。

冊子は、本庁舎総合案内、都市整備課、各支所窓口にあります。市ホームページからもダウンロードできます。

主な市政の動き

- 4月
 - 14日・市民と市長の座談会(中竹野、5月1日・西気、2日・資母、12日・高橋)
 - 16日・春季市政懇談会(出石)
 - 18日・城崎、22日・竹野、23日・日高、28日・豊岡、5月8日・但東)
 - 18日・「豊岡1925」オープン
 - 19日・「市役所新庁舎」ランドオープン
 - 「トヨオカ カバン アルチザン アベニュー」オープン
 - 20日・「神鍋温泉ゆとろぎ」オープン
 - 23日・JAFこころのプロジェクト「夢の教室」(25日、5月13~15日)
 - 26日・「城崎国際アートセンター」オープン
- 5月
 - 11日・水道まつり

子どもたちの夢を育み、伸ばす

JFAJUNIORプロジェクト「夢の教室」開催

市では、子どもの夢への挑戦を応援する事業「JFAこころのプロジェクト夢の教室」を、日本サッカー協会と共同で、平成25年度から実施しています。

日本を代表するさまざまな種目のスポーツ選手が「夢先生」として、市内の全小学校の5年生を対象に、夢を語ります。

また、授業の後半では、子どもたちが実際に自分の夢について考え、発表します。



▲柴田亜衣さんの「夢の教室」

4月23日、アテネオリンピック水泳競技の金メダリスト・柴田亜衣さんを夢先生に迎え、弘道・小坂・新田小学校の5年生が授業を受けました。

24日は、弘道・小野・資母・合橋・高橋小学校の5年生が、北京オリンピックバレーボール競技日本代表の大山加奈さんの教室を受講しました。

25日は、福住・三江小学校の5年生が、サッカーの元横浜F・マリノス等所属の安永聡太郎さんから授業を受けました。

「夢の教室」は、5・6月も引き続き開催しています。

大切な「いのちの水」

5月11日、豊岡市上水道の生みの親である中江種造翁の遺徳に感謝し、市民の皆さんに水の恵みと大切さを再認識していただく「水道まつり」を開催しました。

このまつりは、大正11年5月11日に上水道が竣工・通水開始し、その日を記念して毎年行っています。

寿公園の中江種造翁銅像前

その恵みに感謝

で式典を行った後、裏千家淡交会但馬支部の協力で、二見水源の湧水を使ったお茶会を開催しました。

また、豊岡総合高等学校吹奏楽部が市歌斉唱の伴奏などで式典に華を添えました。

今年は、豊岡稽古堂で利き水、上下水道施設等のパネル展示などのミニイベントを行いました。



▲式典には中江さんの曾孫中江康男さんも出席

第93回水道まつり開催

中貝市長の徒然日記 79

ツバメとへびの物語

「中貝君、ケチなこと言うな。表札くらい貸してやれ！」

日本野鳥の会会長の柳生博さんに一喝されてから2年。

今年もツバメがやってきました。昨年長男が「ツバメのジヨナサン」と名づけた鳥かどうかは分かりません。表札の表面を昨年よりもさらに泥がしたたり落ちています。

哀れ、「中貝宗治」は泥まみれです。

ある日のこと。ツバメたちが騒がしく飛び回っていました。見ると、玄関横の雨どいの上でへびがとぐろを巻いていました。表札に向かって舌をペロペロさせています。

慌ててほうきでへびを払い落としました。と、書けば簡単なようですが、なかなか落ちるものではありません。ほうきの先に恐ろしいほどの生命と筋肉の躍動を感じながら、「こら！こら！」と、相手には恐らく何の威嚇にもならない声を上げながら、ようやくへびを撤退させました。

直ちに家人を呼び集め、玄関前に整列させ、壮大な訓示の後、ツバメ救国戦線を組織。雨どいにビニール袋を下向きに巻きつけるとへびは登れないし、ビニールが風に揺れて出す音をへびは嫌う、との極秘情報もたらされ、直ちにビニール袋が幾重にも巻きつけられました。へびは木酢の匂いが苦手だという情報もたらされ、木酢液を雨どいに塗りました。帰宅途中の長男に「へびいらずの薬剤があるそうだから、買ってくるように」打電して、相当な匂いの薬剤もまきました。

完璧なツバメ防衛線ができあがり、玄関は無残な景色に変わりました。

巳年の方からメッセージが入りました。「屋敷へびは神様です。大事にしてください」なるほど。へびも生存がかっていているわけで、ここには善も悪もありません。が、中貝家の庇護を求めて飛び込んできたツバメたちです。守るのが「義」というものです。そして……

新しい命の誕生です。